

平成 29 年度 第1回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録(要旨)

開催日時 平成 29 年7月 25 日(火)午前 10 時～12 時

開催場所 御菌総合支所 会議室2-4

出席委員 市川知律部会長、嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、
光山佳津美委員、鬼頭由華委員

事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査

(庶務担当)伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名

傍聴者 0 名

1 委嘱状交付

課長より各委員へ交付

2 あいさつ

課長よりあいさつ

各委員より一言ずつ自己紹介

事務局紹介

3 自立支援部会部会長及び職務代理者の選出について

部会長 ⇒ 市川知律委員

職務代理者⇒ 嶋垣智之委員 に決定

○部会長あいさつ

障害福祉計画、地域生活支援拠点を中心に進めていく事になると思われる。

4 自立支援部会について

●事務局より説明

- ・市障害者施策推進協議会及び部会は市の条例及び規則によって定められた市の附属機関である。会議傍聴あり、会議録(要約)公開となっている。
- ・自立支援部会は、地域における支援体制の整備状況や課題、ニーズ等の把握を行い、必要に応じて、各プロジェクトチームの立ち上げの検討及び協議の調整を行うと共に、第5期障害福祉計画策定、地域生活支援拠点のあり方などについて協議を行っていただく部会となっている。
- ・昨年度末からこの地域生活支援拠点チームのみ早く動いていく必要があると本会で決定され、今年度へ引き継がれて動き始めている。
- ・今後、新チーム創設等は、この部会で決定していくことになる。

5 第5期障がい福祉計画・第1期障害児福祉計画について

●事務局より説明

- ・今回から障害児福祉計画も含まれる。
- ・伊勢市の関連する他計画との関係、計画策定のスケジュールについて説明。

【各委員の主な意見】

(部会長)部会では、数値を考えることよりも、地域の実情を踏まえた課題・目標達成のための方策

について意見を出すこととする。

6 地域生活支援拠点について

●事務局より説明

- ・地域生活支援拠点の経過及びチームの位置づけについて説明
- ・H29 年度末が整備の期限だったが難しく、国の方針があり、今後の第 5 期障害福祉計画にて計画していく状況。第 4 期計画では面的整備として記載されていたが、そのことも改めて検討していく事になる。

【各委員主な意見】

(部会長)以前、県の緊急入所事業にて、両親が交通事故にあったり、台風で家が壊れた等にて緊急入所となった事例があったが、こうなっても地域での生活を送れるようにしていくためのものがある。

(担当委員) 地域生活支援拠点チームの活動報告について。今年度、まずは拠点の理解からという事になり、6 月に全国手をつなぐ育成会連合会の又村あおい氏による研修等を行った。研修では、地域生活支援拠点が求められた背景、重要性、整備手法等を学ばせて頂いた。同日の午後にチーム会議を開催し、緊急対応をした事例等を持ち寄り地域の現状を確認したり、又村氏から、整備へのヒントや市町村の役割が重要である事などの意見ももらった。

今後、地域生活支援拠点に絞ったニーズ把握等を行っていく予定。

現在、計画相談の方々に、緊急対応事例の募集を行なっている。

(委員)チームと部会の関係はどう考えたら良いか。

(事務局)部会では、チームの創設を検討・決定する。チーム立ち上げ後は、具体的な調査・課題の分析等はチームで行い、部会ではチーム担当委員から報告を受けて、議論の方向性の確認等の議論を行う。

地域生活支援拠点チームのスケジュールは、第 5 期障害福祉計画に整備の方針を載せる必要があるため、部会のスケジュールにチームが合わせていく形にもなる。

7 その他

(事務局)伊勢市障がい福祉サービスの手引きについて、昨年度まで「作成:自立支援協議会、発行:伊勢市」となっていた。今年度は「作成:伊勢市施策推進協議会自立支援部会」としてよいか。

(委員)了承する。

各事業所詳細情報のアドレスも掲載してもらおうと良い。

(委員)サポステでは、年間新規 50~60 人で、うち手帳取得者 10~13 人。手帳はないが障がいの疑いがあり、自殺に至った方が 2 人いた。手帳がなく、通所先がなく、居場所がないことが影響しているのか等について、まだ分析には至ってはいないが気になっている。

(委員)居場所の有無は影響するだろう。また、手帳あっても支援との関わりがない方もいるだろう。埋もれている方へのアプローチが必要になる。また、お金が要因になっていたり、病識の有無も影響するだろう。税金の滞納等は、社会的孤立等のリスクが存在するサインである。

あゆみでも、相談 143 件中 9 件が引きこもり相談。親 80 歳・本人 50 歳の組み合わせ等、親が高

齢になってきて子が働けないという相談が多い。8050 は、これからの大きな課題である。

(部会長) 前の自立支援協議会からの取り組んだことへの成果について、効果測定、モニタリングが必要。協議会の議論が生かされているのか？修正必要ないのか？等の確認が必要である。

(委員) 部会の組織図については、各会議の目的と、検討課題を定める必要がある。

(事務局) 次回は、8月22日(火)午前10時～。